

JAHA機関紙『One Well-being』投稿規定

【目的】

本規定は、JAHA機関紙『One Well-being』への論文投稿の方法を定めたものである。

【投稿内容】

本誌への投稿論文は、原則として未公開のものとし、臨床獣医学、基礎医学およびOne Well-beingに関係あるもので、獣医学、動物看護学、医学、社会学、心理学および動物福祉と動物との共生の発展に貢献しうる内容とする。

【倫理方針】

1. 著者全員が投稿に同意していること。
2. 著作権を遵守すること。
3. 動物福祉に適切かつ十分に配慮すること。
4. 臨床試験は、飼い主のインフォームドコンセントを得ていること。
5. 人を対象とする研究（人由来の試料・情報を用いる研究）の場合は、厚生労働省の定める「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守すること。
6. 動物介在介入の研究などの場合は、人と動物の関係に関する国際組織（International Association of Human-Animal Interaction Organizations: IAHAIO）の定める白書（White Paper）「動物介在入の定義とAAIに係る動物の福祉ガイドライン」に従い、適切な動物活用についての規範を遵守すること。
7. 動物実験は、著者の所属機関が定めるガイドラインに従って研究が行われたことや所属機関に設置された動物実験委員会などが承認したことを明示すること（詳細は79ページ）。
8. 統計学的な解析を行う場合は、適切な統計手法を採択し、その方法を明示すること。
9. JAHA機関誌『One Well-being』：利益相反（COI）に関する規定（詳細は78ページ）に従うこと。

【投稿資格】

獣医学、医学、社会学、心理学、One Well-beingの発展に寄与する志をもつもの、JAHA会員、非会員を問わない。

【投稿料】

掲載料も含め無料。ただし、別途編集費用が発生する場合には、実費を請求する場合がある。

【投稿区分】

原稿の区分は次の通りとする。

総説：学界において認められた業績、最近の国内外の臨床と研究の動向、One Well-beingに関連する状況などを解説したもの。

症例報告（査読あり）：上記の投稿内容に合致した症例報告で、査読を経て新規性・有用性が認められたもの。

研究報告（査読あり）：上記の投稿内容に合致した研究報告で、査読を経て新規性・有用性が認められたもの。

活動報告：動物の福祉、人と動物の共生に直接あるいは間接的に関係する活動などを紹介・報告するもの。

そのほか：資料、臨床アイデア、施設紹介など臨床やOne Well-beingの向上に有用なものあるいは編集委員会において掲載が認められたもの。

症例発表（執筆アシスト）：当面会員限定とする。内容は上記症例報告と同様だが、編集委員会が執筆支援を行うもの（査読論文とはならない）。

研究発表（執筆アシスト）：当面会員限定とする。内容は上記研究報告と同様だが、編集委員会が執筆支援を行うもの（査読論文とはならない）。

【投稿要領】

投稿原稿は、以下の要領に沿って作成した後、JAHAウェブサイト内の投稿フォームより投稿する。

- JAHA学術雑誌のご案内（投稿規程などは、下記からも確認できます）

<https://www.jaha.or.jp/training/journal/>

- JAHA学術雑誌投稿フォーム

<https://req.qubo.jp/jaha/form/journalsubmission>

1. 原稿の長さは図表など一切を含めて、総説、研究報告、活動報告では刷り上り6ページ、症例報告、症例発表、研究発表、そのほかは4ページ以内を原則とする。それ以上の場合は編集委員に委ねる。刷り上り1ページあたり最大2,100文字を記載できる。図表は1点約500字と換算し、その数と大きさには、本文などの文字数との兼ね合いを十分考慮しなければな

- らない。
2. 原稿は原則和文表記とし、Microsoft wordなどのワープロソフトを用いて作成し、A4横書きで1行30～35字、1ページ25～28行、上下左右の余白30mmで作成する。またページ番号を中央下段に、また全体を通しての行番号をページ左に付ける。図表は本文の後に付け、本文中には図表の挿入場所をページ右の余白部分に指定する。作成した原稿はPDF形式で保存し、Emailに添付して投稿する。
 3. 原稿の第1ページには希望投稿区分および「新規」（新規投稿原稿の場合）あるいは「継続」（継続審査原稿の場合）の表示を上段部分に明記する。次いで、表題、著者名、所属機関およびその所在地（郵便番号を含む）を和文および英文の順に記載する。著者名にはカタカナで振り仮名を付し、連絡責任者の所属、住所および電子メールアドレスを記入する。
 4. 症例報告、研究報告にあつては、第2ページに英文SUMMARY（いずれも250語以内）をダブルスペースで上下左右十分な余白を取り記載する。第3ページに和文要約（約400字以内）を記載する。
 5. 研究報告にあつては、原則としてはじめに、材料および方法、結果、考察、引用文献の順に記載する。そのほかの区分では引用文献以外はその限りではない。
 6. 症例発表、研究発表も症例報告、研究報告の形式に準ずる。
 7. 動物や動物由来の試料を使用した研究論文の場合は、著者の所属機関が定めるガイドラインに従い研究が行われたこと、および所属機関の動物実験委員会などの承認番号を記載する。
 8. 外国人名、国名、地名などは原語のまま第1字を大文字で記述する。ただし国名、地名などは原則としてカタカナ表示する。動植物名は、原則として漢字を使用する。ただし、一般的に使用されているものに限る。それ以外のはカタカナ表示する。動植物、微生物の学名などイタリックで印刷されるべきものにはアンダーラインをつける。薬品名は原則として一般名または局方名を使用し、カタカナ表示する。機器名などは原則として一般に使われている名称を和文で表示する。本文中に一般名などで記載した薬品、機器などの商品（製品）名および社名、所在地は、一般名称の直後に括弧内で記載することができる。
 9. 略語の常用的なもの以外は、本文初出のときには完全綴りを併記する。
 10. 著作権のある図や資料を引用する場合、著者は著作権者から転載の許可を得なければならない。
 11. 図はjpeg, tiff, pdfなどの汎用性がある形式（300dpi以上）、表はExcelで作成する。
 12. 掲載が決定したら、Word形式の本文と、上記形式の図表を編集委員会に送付する。
 13. 度量衡の単位は、M, mM, μ M, N, %, m, cm, mm, μ m, nm, pm, cm², L, mL, μ L, kg, g, mg, μ g, ng, pg, hr, min, sec, msec, rpm, H₂, Ci, mCi, cpm, dpm, ppm, °C, cal, kcal, lux, CPE, LDなどとし、特殊な記号を使用するときは簡単な説明を加える。
 14. 引用文献は、投稿論文に密接に関係のあるものとする。引用できる文献は、学会誌、専門的学術誌あるいは専門書、および統計資料などとし、学会抄録、講演会テキスト、レフリー制度のない商業雑誌などは原則として引用できない。引用文献は、文中に最初に引用された順に配列し、本文中では引用箇所には[1,2-5]のように記載する。記述は、著者名、年次、論文のタイトル名、誌名、巻、頁とする。原則としてDOI表示がある場合は、DOIを、無い場合はURLを記載する。単行本の場合は、著者名、年次、タイトル名、ページ、書名、編者名、版、発行者、発行地とする。和文誌名は原則として省略しない。ただし、慣例的に使用されているものはこの限りではない（例：日獣会誌、日獣誌など）。欧文誌名の省略はJournal Title Abbreviationsによる。指定のないものは省略しない。統計資料などは、資料名、発行機関、発行年、ウェブ上のものはそのURLを記載する。
 15. 文献の記載方法は下記の例に従う。
岩田泰介, 高橋里沙子, 伊藤舞, 今井有紀, 岸竹美, 戸村慎太郎, 山本杏菜, 藤田淳. 2022. 猫における希釈式自己血採血・輸血の安全性と可能性について. 日本獣医麻酔外科誌53 (2):17-23. <https://doi.org/10.2327/jjvas.53.17>.
Saito, A., Shinozuka, K., Ito, Y. Hasegawa T. 2019. Domestic cats (*Felis catus*) discriminate their names from other words. Sci Rep 9, 5394. <https://doi.org/10.1038/s41598-019-40616->
谷健二. 2024. 胸水. 230-232, 獣医外科学, 佐々木伸雄, 嶋田照雅, 西村亮平, 奥村正裕, 三角一浩, 中市統三編 朝倉書店, 東京.
Hamm, L. L., Alpern, R. J. and Preisig, P. A. 2013. Cellular mechanisms of renal tubular acidification. pp. 1917-1978. In: Seidin and Giebisch's The Kid-

ney, 5th ed. Alperm, R. J., Caplan, M. J. and Moe, O. W. eds., Elsevier, Amsterdam.

Wild, D. G. 2013. The Immunoassay Handbook, 4th ed., Elsevier Science & Technology, Oxford.

令和6年（2024年）全国犬猫飼育実態調査. <https://petfood.or.jp/data-chart/> [アクセス 2025年4月1日].

【著作権】

本誌に掲載された論文の著作権は、JAHAに帰属する。ただし、すでに公表されている図、表、写真などを使用する際は、著者の責任において著作権者の使用許諾を得るものとする。

【原稿の提出】

原稿の提出は、JAHA ウェブサイト内の投稿フォームより投稿する。

- JAHA 学術雑誌のご案内（投稿規程などは、下記からも確認できます）

<https://www.jaha.or.jp/training/journal/>

- JAHA 学術雑誌投稿フォーム

<https://req.qubo.jp/jaha/form/journalsubmission>

公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）事務局

E-mail : info@jaha.or.jp

TEL : 03-6262-5252

FAX : 03-6262-5253

URL : <https://www.jaha.or.jp/>

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-7常盤ビル7階

【附則】

本規程の変更は、編集委員会で決する。

JAHA 機関誌『One Well-being』：利益相反(COI)に関する規定

【目的】

本規定は、JAHA 機関誌『One Well-being』に掲載される論文の著者、編集者、査読者における利益相反(COI)状態の透明性を確保し、学術雑誌の信頼性を維持することを目的とする。

【利益相反の定義】

本規定において、利益相反(COI)とは、論文の著者、編集者、査読者の経済的または個人的な利益が、論文の客観性または公正性に影響を与える可能性のある状況をいう。

【開示の対象】

投稿された論文（症例報告、症例研究、アニマルリテラシー、JAHA活動報告、そのほか編集委員会が必要と判断したもの）のすべての著者、編集者、査読者は、COI状態の有無にかかわらず、本規定に従ってCOIに関する報告を行うものとする。

【開示の内容】

COIに関する報告には、以下の内容を含めるものとする。

論文の主題に関連する過去3年間における、著者、編集者、査読者本人およびその配偶者、パートナー、同居家族の以下の利益。

金銭的な利益：研究助成、雇用関係、株式保有、講演料、コンサルタント料、特許権など。

個人的な利益：論文の主題に関連する団体への所属、個人的な関係、競争関係など。

【開示の方法】

著者は、投稿時に所定のCOI申告書を提出するものとする。COI申告書は、JAHAのウェブサイトからダウンロードできるものとする。編集者および査読者は、論文の審査または編集に携わる前に、COI申告書を編集委員会に提出するものとする。

【COIの審査】

編集委員会は、提出されたCOI申告書の内容を審査し、COI状態が論文の客観性または公正性に影響を与える可能性があるかと判断した場合、論文の掲載を見送るか、COI状態を論文中に明記することを著者、編集者、査読者に求めることができる。

【罰則】

COI状態を故意に隠蔽したり、虚偽の申告を行った者に対しては、編集委員会は投稿の拒否、掲載の取り消し、または一定期間の投稿禁止などの措置を講じることができる。

【附則】

本規程の変更は、編集委員会で決する。

公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）事務局

E-mail : info@jaha.or.jp

TEL : 03-6262-5252

FAX : 03-6262-5253

URL : <https://www.jaha.or.jp/>

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-7常盤ビル7階

JAHA機関誌『One Well-being』：動物実験倫理に関する規定

【目的】

本規定は、JAHA 機関誌『One Well-being』に投稿される論文において、動物を用いた研究が適切な倫理的配慮のもとで行われていることを保証し、動物の福祉を保護することを目的とする。

【適用範囲】

本規定は、生きた動物を用いた、または動物由来のサンプルを用いたすべての研究に適用される。

【倫理審査】

動物を用いた研究を行う著者は、所属機関の動物実験委員会またはそれに準ずる倫理審査委員会による承認を得ていることを、論文中に明記しなければならない。承認番号も併せて記載すること。

所属機関に倫理審査委員会が設置されていない場合は、National Research Council of the National Academies による Guide for the Care and Use of Laboratory Animals. Eight Edition (<https://grants.nih.gov/grants/olaw/guide-for-the-care-and-use-of-laboratory-animals.pdf>)（日本語版：実験動物の管理と使用に関する指針。アドスリー；第8版。2011）の動物実験に関する基準を満たしていることを記載しなければならない。

【動物福祉への配慮】

著者は、論文中で以下の項目について明確に記述し、動物福祉に十分配慮した研究であることを示さなければならない。

研究の目的および必要性：動物を用いることの科学的妥当性、ほかの方法による代替可能性を検討し、動物を用いる必要性を明確に説明すること。

動物の使用数：必要最小限の動物数で実施すること。

動物の種および系統：研究目的に最も適した動物種および系統を選択すること。

飼育環境：動物の福祉を最大限に考慮した飼育環境を提供すること。

苦痛の軽減：動物の苦痛を軽減するための適切な麻酔、鎮痛、安楽死の方法を採用すること。

動物の入手経路：動物の入手経路を明記し、倫理的な問題がないことを示すこと。

【倫理違反】

編集委員会は、動物実験倫理に関する重大な違反があると判断した場合、論文の掲載を拒否することができる。

【附則】

本規程の変更は、編集委員会で決する。

公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）事務局

E-mail : info@jaha.or.jp

TEL : 03-6262-5252

FAX : 03-6262-5253

URL : <https://www.jaha.or.jp/>

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-7常盤ビル7階